

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-105

部門名：校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名：彦根市立佐和山小学校
活動名： あこがれ がたがなぐ学校文化 — 子供の力 で発展し続ける学校づくり —	
解決すべき課題： <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いている学校が、翌年には突然荒れることがあり、経営が安定しない。 ・これといった校風がなく、その時々で大切にしていることが変わってしまう。 ・子供同士のつながりが弱く、ちょっとした表情や言葉遣いが原因でもめてしまうことが多い。 ・いじめ、不登校、特別な支援が必要な児童への対応など、多くの課題がある。 ・校内研究等で力を入れて取り組んだ成果が、教職員の異動とともに失われてしまう。 ・教職員の若年齢化が進み、指導力の向上が緊急の課題となっている。 	
目標・方針： 子供の願い によって学校の文化が生み出され、持続発展する仕組みをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・6年生が卒業したり、教職員が入れ替わったりしても、安定し続ける学校をつくる。 ・子供も教師も、「やらされる」のではなく、楽しみながら「やりたくなる」持続性のある取り組みにする。 ・もともとあった学校の強みやよさを生かすことで、子供や教職員への負担をできるだけ小さくする。 	
活動内容： あこがれる →考える・話し合う→ 目標を持つ → まねる →考える・話し合う→ 試す → 伝統をつなぐ	
<ol style="list-style-type: none"> あこがれる 5年生「佐和山リーダーになろう」 総合他 (スパイラルアップによる持続発展) 5年生の3学期から、学校のリーダーになる準備を始める。6年生の活躍を想起したりインタビューしたりする活動を通して、あこがれの気持ちを引き出し、次は自分が学校のリーダーになるという意識を高める。 ①どうすれば6年生みたいになれるだろう。②学校の伝統ってなんだろう。③どんな学校にしたいかな。 目標をもつ まねる・試す 6年生「自分たちの力でよりよい学校にしよう」 総合・特別活動他 進級して6年生になったら学年集会を開き、より良い学校にするための具体的な方策を練って実施する。 伝統を受け継ぐ 6年生は5年生の質問に答えたりアドバイスしたりする。次年度へのスパイラルアップで持続発展する。 	
活動の成果： <ul style="list-style-type: none"> ・そうじ革命 …2014年12月以来毎年5年間継続。6年生がリーダーとして活躍する仕組みが定着した。 ・あったか魂 …2015年から主に挨拶に重点を置き、取り組み方を進化させながら継続。朝には校門で、6年生の中に下学年も混ざって列を作る。アイビーム挨拶やキャッチボール挨拶という新たな方法を考案して実施。 ・あったか応援…運動会の応援合戦をきっかけに、様々な場面で学年を越えて応援し合うようになった。 ・あこがれをもとにして子供の力で伝統を受け継ぐ取組は、2011年以来8年間継続。子供も教職員も「佐和山には伝統がある。」と話すようになった。保護者の中にも、伝統を感じとってくださる方が増えた。 ・学年を越えたつながりが強くなり、一緒に遊んだり、名前を覚えて言葉をかけ合ったりするようになった。 ・成果が他校にも伝わり、市内4小学校でも、同様の取組が広まった。 ・教職員の若年齢化に対応するとともに、学校の持続発展を支える、新たな教職員の資質向上策ができた。 	
アピールポイント (アイデアや工夫)： <ul style="list-style-type: none"> ・新たなものを取り入れるのではなく、今ある学校の強みを基にして学校改善に取り組んでいるところ。 ・児童会が発信した「あったか魂」という理念が教職員にも浸透。子供と教師が一体となって、8年間継続中。 ・6年生全員が1年間リーダーを経験。様々な児童があこがれの対象となり、下学年へと受け継がれている。 ・「かもCクラブ」や「課題別研究チーム」を作ること、若手の指導力向上への意識が高まった。若手が自らリーダーに立候補したり、積極的に授業提案をしたり、研究会で発言したりするようになった。 ・本校での成果が他校に伝わり、市内4小学校でも取組が始まっている。 	

課題	学校が荒れる 不安定	受け継がれない 学校文化	いじめ・不登校 特別な支援	担任平均年齢 33歳	20代担任の学級 12/23	教職員人事異動 1年で 42%
目標・方針	子供の力で発展し続ける学校をつくる 成功の鍵は「あこがれ」 目標をもつ → まねる・試す → 伝統をつなぐ (スパイラルアップ(発展)) 「佐和山の伝統を受け継ぎたい。」 → 「私たちがしてきたことを受け継いで、もっと良い学校にしてほしい。」					
活動内容	あこがれを生み出す仕組み もともとあった発展のタネ たてわり 児童会 行事 そうじ革命 (2014年12月開始以来、6年生の手で改善を重ねながら伝統として受け継がれてきた) あったか魂 (児童会の構想が全校に定着。みんなの心をつなぐために2015年以来形を変えながら継続) あったか応援 (お互いを大切にするあたたかい学校にしたいという願いから、運動会の応援合戦を進化)			教職員の役割 佐和山らしさとはあこがれのもと、発展のタネとは ①学校の強みを分析 ②あこがれを生み出す仕組み作り ③6年生の活動を支援 ④下学年の声をフィードバック ⑤5年生に引き継ぐ場作り		
成果	☆革命から文化へ☆ 全ての6年生児童が1年間リーダーを経験。「そうじ革命」が学校の文化として認識されるようになった。 ☆規範意識の高まり☆ 子供の力でより良い学校にしようとする取り組みが定着。当たり前のことを当たり前にすることが伝統になりつつある。 ☆つながりの深まり☆ 6年生リーダーを中心に学校がまとまる。学年を越えて、あたたかい子どものつながりが実現。 ☆伝統として定着☆ 6年生がリーダーシップをとり、8年間継続して、学校が安定。子供が伝統という言葉を使うようになる。					取組が他校に広がる 市内4小学校でも取組開始